NIE実践報告

1．タイトル：新聞に親しもうとする児童の育成　～低学年におけるＮＩＥを活用した授業づくり～

２．学校名

加古川市立陵北小学校

３．実践者名（代表者名）

井上博嗣

４．学年

第3学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習/社会科　児童数54名

６．単元（本時の学習課題）名

総合的な学習「ニュースペーパー」/社会科「お店ではたらく人」

７．目標(狙い)

社会科において新聞を資料として活用し、調査活動をおこなったり、新聞の中にある漢字や写真を用いてゲーム形式で楽しんだりすることを通して、新聞に対する興味や関心を高める。

８．評価の視点

授業後に提出する児童のワークシート記録や学習中の子どもたちの様相に対する教師の主観的評価

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

10～11月に社会科の既存単元に合わせた形で新聞活用を3時間、1～2月には‘新聞’をテーマとした総合的な学習における新たな単元として7時間の実践、また1月の学校行事に合わせた形で2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①社会科「お店ではたらく人」において、お客さんをたくさん呼ぶ工夫として新聞に挟んであるチラシに着目し、どの新聞でも、何曜日でも同じチラシが入っているのかを1週間5紙の比較調査をおこなった。
②総合「ニュースペーパー」においては、「小学生新聞」を用いて、漢字探しゲームやお気にいりの写真選びなどに取り組んだ。（留意点：児童が3年生であるため、ルビがふってある「小学生新聞」でないと、読んでも内容理解が難しい場合があり、活動に対する楽しさも激減する傾向が見られた。）
③学校行事「安全集会」においては、ゲストティーチャーとして記者を招き、東日本大震災を取材された様子について写真などを用いて講話していただいた。（留意点：小学生全般相手の講話であるため、高学年の児童には理解できたが、1年生の児童においては難しい場面も見られた。事前にゲストティーチャーとの綿密な打ち合わせが必要である。）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

子どもたちの発達段階をふまえた取り組み（ゲーム形式で競い合う、資料として比べるなど）をおこなえば、十分新聞を活用した取り組みがおこなえると感じた。

12．成果と課題

多くの実践事例を教えてもらったことによって教師側にもゆとりができ、工夫すれば年齢の低い小学生においても十分活用した取り組みがおこなえると感じた。ただ、カリキュラムとして時間数的な課題はあり、既存の教科などの組み込んでおこなっていく方がベターである。もう一点、購読期間が4ヶ月というのは小学校においては長過ぎであり、そんな長期間5、6紙も新聞を購読する必要はないと感じた。置き場所にも困った。